

第3学年 総合的な学習の時間指導案

1 教科名 単元名

総合的な学習の時間「東三万博～モノと輝く未来社会～」

2 単元目標

・対話によって「モノと輝く未来社会」を学年で創造することを目的としている。

3 単元の評価規準と創造的な資質・能力の素地を育成する視点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の評価 規準	① 本やインターネットを活用して調べること、物の使われ方や作られ方に関する知識を身に付けている。	① 東三万博で紹介したいモノを選ぶために、モノの活用方法を考えている。 ② グループで選択したモノを活用して、遊びや工作物を提案している。	① 東三万博での工作物や遊びの内容について進んで話し合っている。
創造 的な 資質 ・ 能力 の 素 地		① グループで選んだモノについて調べたり、選んだモノを活用して遊びや工作物を考えたりすることで、モノの使われ方や特徴を捉える素地を育成する。	

4 単元設定の理由

2025年は、大阪・関西万博が開催されている年で、現在も多くの来場者が訪れている。万国博覧会は、世界各地の最新技術を展示したり、過去の歴史を紐解いたりしながら、未来の社会を想像したり、創造したりするために行われている。1960年大阪万博では、新幹線や東京タワーなど、日本の高度経済成長期を象徴する大きな物語の一つとして位置づけられた。その後、大きな物語の瓦解、インターネットの普及によるリゾーム的な世界の出現、グローバリズムからの揺り戻しによるネーションステートの復権等、「成長」や「多様性」といったひとくくりの言葉では表せない時代に差し掛かり、そんな中での2025年の万博開催である。「モノ」の概念が、物体としての「モノ」だけを指し示すのではなく、バーチャル世界も「モノ」として捉えるようになった現在(例えば、タブレット端末を本として活用したり、紙のページをめくるようにスクロールしたり、鉛筆で文字を書くようにタッチペンで印をつけたり)、大阪・関西万博は、「モノ」の未来について問う博覧会となっている。

一方、各教科学習を横断した「おおたの未来づくり」が新設された。「おおたの未来づくり」は、「A 新たなものを創造するものづくり」と「B 新たなものを創造する地域創生」という2つのテーマが設定されている。その中でも、「A 新たなものを創造するものづくり」は、モノについての開発や提案、体験などが学習のアウトラインとして描かれている。

2025年の日本の西で「モノ」の在り方を問い、未来社会を見据える万国博覧会で開催されている今、日本の東である東調布第三小学校で学校教育の分野から万国博覧会を開催する意義は大きい。そこで、本単元を

「東三万博～モノと輝く未来社会～」とした。(もちろん、このタイトルは「大阪・関西万博～命輝く未来社会～」と掛け合わせたタイトルである。)

5 児童の実態

略

6 指導の手だて

(2) 試行錯誤

指導の手立てとして、次の3点を挙げる。1点目は、いつも使っているモノがどのように作られたのか、どのように活用されているのかを知ることである。ここでは、学習用端末や本を中心に児童が調べる時間を十分に設ける。2点目は、自分たちで選んだモノをいつものとは異なる目的で作成するかを考え、試すことである。3点目は、モノの特徴を模造紙にまとめるために、様々な情報の中から、どの情報を取り入れればよいか考えることである。グループの友達と話し合いながら、試行錯誤できるようにする。

7 指導計画

時	○主な学習活動	・指導の留意点 (指導者がすること) ★指導の手だて〈具体的手だて〉	◆評価規準【観点】(方法) ◇創造的な資質・能力の育成 に関する視点【観点】(方法)
1 ～ 2	○いつも使っているモノの中から、様々な用途に使われているモノをあげる。 ○東三万博を開催するために、モノについて調べたり、モノを使った遊びや工作物の提案をしたりすることを知る。	★輪ゴムや段ボール、ペットボトルなど身近な物をもとに考える。 ・大阪・関西万博の動画を見て、イメージをつかむ。	◆【思考・判断・表現】① (発言・ワークシート)
3 ～ 8	○東三万博で紹介したいモノを一つ選ぶために、グループに分かれて話し合う。(本時) ○グループごとにモノの使い方や作られ方について調べ、模造紙にまとめる。	・グループで選択する際に、物とその用途を結んだマッピングを作成する。 ★模造紙に内容を明確にするために、「素材」「使い方」「歴史」などの項目例を示す。	◆【思考・判断・表現】② (付箋、発言)
9 ～ 4	○モノを使った遊びや工作物についてのアイデアを出し合う。 ○モノを使った遊びや工作物を作成しながら、グループごとにパビリオンの運営について話し合う。 ○グループごとに東三万博でパビリオンの運営をする。 ○東三万博を通して、モノに対して考えたことを振り返る。	★児童がイメージできるように、具体物をいくつか用意する。 ★役割分担が明確になるように、「使用するもの」「用意するもの」「作る人」などが明記されたワークシートを配る。	◆【思考・判断・表現】① (ワークシート、発言) ◆【思考・判断・表現】② (ワークシート、発言)

8 本時の指導（全14時間中の第3時）

（1）目標

東三万博で紹介したいモノを選ぶために、モノの活用方法を考えることができる。

（2）展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】（方法） ★指導の手だて
導入	○東三万博を開くために、モノの使われ方や新たな活用のされ方を模造紙にまとめることを伝える。 ○本時のめあてを確認する。	★模造紙に書く内容がイメージできるように書く項目を例示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 東三万博で紹介したいモノを選ぶために、モノの活用方法を考えよう。 </div>		
展開	○前時までで紹介したモノについて振り返り返る。 ・ゴムはいろいろなものに使える。 ・木は、リングに使える。 ○工作物や遊びなどに活用できるモノを選ぶために、画用紙にウェビングマップを書く。 ・輪ゴムは、伸ばしたり、まとめたりすることができる。 ・木は、積むことやならべることができる。 ○グループで話し合い、東三万博で紹介したいモノを選ぶ。	★画像やイラスト、実物などを通して、モノの使われ方を具体的にイメージできるようにする。 ★ウェビングマップを書いて、イメージが浮かばない場合には、別のモノを選択して考えるように促す。 ★ウェビングマップを画用紙に書くときに、マップ上で操作ができるように付箋を活用する。 ◆東三万博で紹介したいモノを選ぶために、モノの活用方法を考えている。【思考・判断・表現】②（付箋、発言） ★選択するときに、多数決ではなく、ウェビングマップの付箋の数や意見が活発に出たものを選択するように伝える。
振り返り	●時時では、選んだものの使われ方や新たな活用のされ方について調べ、模造紙にまとめることを伝える。	

（3）授業観察の視点

・グループのメンバーにモノの使われ方や新たな活用方法について伝えているために、ウェビングマップを活用することは有効であったか。